

◆団体基本情報

No.	9	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人仙台市救急医療事業団		
所在地	〒984-0806 仙台市若林区舟丁64-12						
電話番号	022-224-3761	FAX番号	022-264-4554		所管 部局	健康福祉局 健康政策課	
団体ホームページ	http://www.sendai-emsf.jp						
代表者職氏名	理事長 今井 克忠			設立年月日	昭和55年2月12日		
資本金・基本財産	10,000 千円	市の出捐額(割合)	10,000 千円 (100.0%)				
設立目的	増加する救急医療需要に対処し、仙台市における急病患者の迅速及び適正な受療を促進するため、救急医療を提供し、地域住民の医療水準の向上と健康の保持増進を目指すとともに、救急医療に関する情報の収集・提供、救急知識の普及啓発を図ることを目的とする。						
事業概要	仙台市急患センター・仙台市北部急患診療所・仙台市夜間休日こども急病診療所の管理運営 医療知識の普及啓発						
評価対象決算期	令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日						

◆人員等の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①常勤役員数	2 人	2 人	2 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	2 人	2 人	2 人
②常勤役員平均年齢	68.5 歳	69.5 歳	68.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	2,759 千円	3,310 千円	3,307 千円
④職員数	11 人	11 人	10 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	3 人	4 人	4 人
⑤職員平均年齢	47.4 歳	49.6 歳	50.7 歳
⑥職員平均年間給与	4,162 千円	3,784 千円	3,859 千円

◆主要財務データ

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①当期経常増減額	△ 955 千円	2,286 千円	417 千円
②当期経常外増減額	0 千円	0 千円	0 千円
③当期一般正味財産増減額	△ 955 千円	2,286 千円	417 千円
④一般正味財産期末残高	7,727 千円	10,013 千円	10,430 千円
⑤指定正味財産期末残高	10,000 千円	10,000 千円	10,000 千円
⑥正味財産期末残高	17,727 千円	20,013 千円	20,430 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①市からの補助金	0 千円	0 千円	0 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	229,039 千円	244,673 千円	625,611 千円
③市に対する収入依存度	22.62 %	24.13 %	67.50 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和2年度事業費
休日夜間診療所管理運営事業	仙台市急患センター・仙台市北部急患診療所・仙台市夜間休日こども急病診療所の管理運営	914,450 千円
医療普及啓発	市民医学講座の開催	32 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	<p>新型コロナウイルス感染拡大局面においても、指定管理者として急患センター・北部急患診療所・夜間休日こども急病診療所の管理運営を適切に行い、初期救急医療を提供することで、仙台市民の健康増進と福祉の向上に努めた。</p>	<p>指定管理者として、1年を通じて、急患センター・北部急患診療所・夜間休日こども急病診療所の運営を行っており、本市の初期救急医療体制の中心的役割を担っている。</p>
2. 業務・組織管理	<p>診療所の運営にあたり、医師については各医会や医療機関等から、医療技術職については仙台市薬剤師会、急患センター放射線技師部会、仙台市夜間休日診療所臨床検査技師会から円滑な派遣が得られるよう、連絡調整を図り、必要な人員確保に努めた。また、看護師をはじめとする医療従事者の質の向上に向けて、研修の実施や必要な情報の共有に努めた。</p>	<p>医療スタッフの確保が困難な状況下で、関係団体への協力依頼を行いながら医師等を確保したことは評価できるものの、中長期経営計画の作成や、各種規程の整備、職員のモチベーション向上に繋がる制度の創設については、早急に取り組みきたい。</p>
3. 財務状況	<p>令和2年度患者数は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や季節性インフルエンザ等他の感染症患者の大幅な減少等の影響により、前年度と比較して60.7%減の26,584人となった。患者数の減少に伴い診療所運営事業収入が減少したことにより、仙台市からの指定管理料が増加したため、仙台市に対する収入依存度が高まったところであるが、新型コロナウイルス感染症に関するトリアージ実施料の算定や感染拡大防止等に係る県補助金等、新たな収入の確保に努めた。</p>	<p>休日夜間の初期救急医療を担う事業特性と、経費の大部分を人件費が占める支出構成から、大幅な経費の削減は困難であるが、引き続き患者増減の状況把握に努めながら、適切な在庫管理を実施されたい。また、随意契約から競争入札への移行を進める等、更なる効率的な運営に努められたい。</p>
4. 今後の方向性及び課題	<p>仙台市の初期救急医療の中心的な役割を果たすため、適切な医療サービスの提供や事業団経営の改善、職員の資質向上、医療スタッフの連携強化などに積極的に取り組んでいく。今後の課題としては、診療所運営体制の確保や、法人事務局の体制強化、新型コロナウイルス感染症への対応などがあるが、市当局との緊密な連携、情報共有等を図りながら、これらの課題の解決に組織一丸となって努力していく。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大局面にあっても、初期救急の拠点として事業を継続できたことは評価できる。今後は、同種事業を行う他団体の調査と分析や、利用者の声の詳細内容を外部へ周知すること等により、安定的な診療体制の維持・確保に努められたい。</p>